

～おわりに～

愛荘町教育委員会 教育長 徳田 寿

人は誰しも少なからず、幸せな人生を送りたいと思っています。ましてや「人生100年」と言われる今、できることならその幸せが長く続いてほしいと思うのは私だけでしょうか。

令和という新しい時代に入り、社会にはソサエティ5.0（超スマート社会）の実現に向けた技術革新等、次々に新たな潮流が押し寄せています。加えて、新型コロナウイルス感染症の大流行は、経済活動に大きな打撃を与えるとともに、社会の有り様や生活の仕方を著しく変えてしまいました。教育の世界にあってもオンライン授業の加速化等「新しい教育様式」への転換が叫ばれています。正にこのような予測できない時代にあって、どうやって幸せになるかということは切実な問題です。

識者によれば、幸せの「四つの因子」というものがあり、それは「やってみよう！因子」（自己実現と成長の因子）「ありがとう！因子」（つながりと感謝の因子）、「なんとかなる！因子」（前向きと楽観の因子）、「ありのままに！因子」（独立と自分らしさの因子）というものだそうです。この四つの因子は、金銭や物、名誉、地位などとはちがって、他人には関係なく得られる幸せであり、長続きすることが明らかとされています。でもこうした四つの因子は、「こうして幸せになるんだ」と求めていくというより、自覚のないままに打ち込んでいた仕事ややりがいのある仕事と感じたり、知らず知らずに多様な人と交流していることでよかったと感じたりするように、結果的に幸せだと思えるということなのでしょう。

教育という営みを考えた場合、多くの場合にこの四つの因子とつながりがあるように思います。すなわち「やってみよう」という意識は、正に主体的な学びを現すものであり、学びのエネルギーです。こうした主体的な学びが、気がつけば自己実現や成長につながるのではないのでしょうか。「ありがとう」は、人と人とが豊かにつながる一つのきっかけでもあり、そうしたきっかけから多様な人々との出会いへと広がることで、「人生の楽しみは出会いだ」というような感覚も生まれることでしょう。「なんとかなる」は、物事に向き合い、失敗したり、試行錯誤を繰り返したりするポジティブな姿勢であります。これからの予想できない社会を生き抜き、逆境や困難に押しつぶされることなく順応していくというレジリエンスの力は、今、教育の世界においても注目されているところです。「ありのままに」は、人がそれぞれ自身の個性や持ち味、よさや強みを発揮しながら、それぞれに輝いて生きていく様であります。他人との比較ではなく、自尊感情を高く持ち生きていくならば、差別・偏見・いじめといったものは無縁であり、共に生きることのすばらしさをすべての人々が享受できることでしょう。

教育のすばらしいところは、「わたしの幸せ」「わたしたちの幸せ」を「あなたの幸せ」「みんなの幸せ」へと広げることができることです。この度の新しい教育大綱（第2期教育振興基本計画）の策定を機に、本町のめざす教育の姿「人が輝き 人が育つ 未来を拓く愛荘の教育」の具現化を図りながら、個人の幸せの実現とともに、幸せな学校・園、家庭、地域社会をともに築いていきたいものです。

最後になりましたが、策定にあたってお世話になりました策定委員の皆様、貴重なご意見をお寄せいただいた皆様方に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。